

災害の「備え」 できていますか？

災害は突如やってきます。被害の規模によっては通常の生活が送れなくなってしまう。地震などにより水道管が破損すれば水も使えなくなります。そのような場合に備えて、この機会に日頃、当たり前に使っている「水」について考えてみませんか。備えあれば憂いなし。皆さんでできる対策や上下水道局で行っている災害対策についてご紹介します。

上下水道局が備えていること

災害時の応急給水

緊急時には、学校のグラウンドなど、下表の場所で応急給水を行います。フタができる清潔な容器を用意して、給水を受けてください。

給水場所	所在地	貯水池
久代小学校グラウンド	久代3-27-9	久代小学校緊急貯水槽
明峰小学校グラウンド	萩原台西3-242	萩原台・湯山台配水池
市民運動場	向陽台1-11-2	緑台市民体育館緊急貯水槽 緑台高区配水池
清和台南小学校グラウンド	清和台西5-1-2	清和台・けやき坂中高区配水池
東谷小学校グラウンド	見野2-30-1	北消防署緊急貯水槽 大和低区・高区配水池
北陵小学校グラウンド	丸山台1-3-2	一庫中区配水池
キセラ川西せせらぎ公園(予定)	尖打1(予定)	せせらぎ公園緊急貯水管 滝山配水池

※配水池9カ所と緊急貯水槽など4カ所でおよそ16万人分の飲料水として約13,200立方メートル(災害の発生から最初の3日間は1人1日あたり3リットル、その後4日間は1人1日あたり20リットル)確保しています。

公民館に
配備

きんたくんの力水
～災害用備蓄水も作っています～



ご家庭で準備できること

飲料水の確保

地震などの災害発生から救援体制が整うまでには、およそ3日間を要するといわれています。

人が生きていくためには、最低1人1日あたり3リットルの水が必要です。

〈飲料水の保存方法〉

水道水を保存する場合は、フタができる清潔な容器に口元いっぱい水を満たし、フタをしっかりと閉めてください。

日の当たらない涼しいところでは3日間程度、冷蔵庫の中では1週間を目安に水を入れ替えてください。

「日常備蓄」を心がけましょう

災害用の特別な準備ではなく、少し多めの買い置きなどをして、料理などに使いながら補充を繰り返すようにすると、いざという時の備えになります。

「日常備蓄」の考え方



お風呂の水を
ため水に

生活用水の重要性

断水になると、困るのは生活用水が使えなくなることです。浴槽に水を張っておけばトイレにも利用できます。少しでも残しておくといざという時に安心です。